

新市長は中村欣一郎氏



任期満了に伴う鳥羽市長選挙で、立候補者が1名となり、無投票で元三重県議会議員の中村欣一郎氏が初当選しました。

議員の中村欣一郎氏（58歳・安楽島町）が初当選しました。任期は4月21日から平成33年4月20日までとなります。

中村氏は、日本大学法学部を卒業後、埼玉県の仕事機械メーカーに入社し、昭和62年から家業の中村鉄工所へ。平成11年から鳥羽市議会議員を三期務め、平成23年から三重県議会議員を歴任。

中村市長が初登庁

中村欣一郎市長は、4月21日、午前10時30分に初登庁し、職員の出迎えを受け、市民文化会館で就任のあいさつをしました。

中村市長は、あいさつの中で「鳥羽は頑張れば、全国のトップランナーになれると思っています」と鳥羽市の可能性について熱く語りました。また、職員に対し3つの思い「鳥羽の可能性を誰よりも感じてほしい」「発想を変えて物事に取り組んでいただきたい」「何においても、これが

鳥羽ならば・・・と考える欲しい」と述べ、職員に意識の向上を求めました。



花束を受ける中村市長

三重県議会議員補欠選挙は野村保夫氏が当選



中村欣一郎元県議会議員の辞職に伴う三重県議会議員鳥羽市選挙区補欠選挙が行われ、元鳥羽市議会議員の野村保夫氏が初当選しました。

鳥羽市議会議員補欠選挙で奥村敦氏が当選



野村保夫元市議会議員の辞職に伴う鳥羽市議会議員補欠選挙が4月16日に行われ、新人で会社役員奥村敦氏（61歳・池上町）が初当選しました。

任期は、平成31年4月30日までとなります。



Vol.158

ことわざの誤用

俵万智さんが「言葉の虫めがね」という本の中でこんなことを書いています。

お見合いをした女性が、相手の男性から好意的に、このように言葉を掛けられた。

「君みたいな外面のいい人にかったのは初めてだ」その人は「君みたいに愛想がよくて、人見知りしなくて、明るいお嬢さんに会ったのは初めてだ」と言いたかったのだろう。が、言葉の使い方を間違ってしまうたよつだ。「外面がいい」というのは、何かうわべを取り繕うのがうまいよつな、あまりいいニュアンスではない。そこに彼女は引っかけり、結局そのお見合いは成立しなかった。男性には悪気がないのだが、たつた一つとどまるのだ。言葉とは、すばらしいものであると同時に、恐ろしいものである。

ろしいものである。
「濡れ手で粟」(濡れた手で粟をつかむと、たくさんくっついてくるように、楽をして多くの利益をあげるこの意)穀物の粟(あわ)そのものを知らない若者が「濡れ手で泡」(濡れた手でアワをつかもうとしても消えてしまつ、いくら頑張つても報われない意と解釈して使つたとしてもあながち非難できない。時代や、世代間によって誤解が生じることも仕方ないことかも知れない。

「ミニニケーション」からのトラブルは、伝える方と受け止め方の違いで生じる誤解で発生することが多い。言葉が正しく相手に伝わつたかどうか相手の表情や態度を含めて「ミニニケーション」の中で確かめていくことが大切である。分かつたふりで、知らず知らず相手に手を傷つけてしまうこともある。一方的発信の「ミニニケーション」が増え、目の前の相手が見えなくなっている現代、そのことを充分理解した上で言葉のキャッチボールを行いたいものである。